

平成 30 年 6 月 17 日現在

機関番号：23803

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02008

研究課題名(和文)「暴力」の多様な存在様態に関する領域横断的研究 「表現」概念との関連性を通じて

研究課題名(英文) Multidisciplinary Study on the Multiformality of "Violence": Through the Relevance to the concept of "Expression"

研究代表者

飯野 勝己 (IINO, Katsumi)

静岡県立大学・国際関係学部・准教授

研究者番号：70551729

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：研究期間内に計6回の研究会を開催した。研究代表者・分担者の8名に、時に研究協力者も加わり、各自の研究発表とそれにもとづく討論を行った。それらの共同研究を通じて各自が得た成果は、各自の論文や学会発表として随時研究期間内に公表。さらに本研究の総合的な成果公開として、「暴力の哲学・倫理学」の論集を企画し、その公刊(2018年秋の予定)へ向けての執筆・編集活動を進めている。研究代表者・分担者および協力者が各章の執筆を担当する、全9章の論集になる。

研究成果の概要(英文)：Six study meetings were held in the study period. In each study meeting, principal investigator and research team members (hereafter "we"), sometimes with a research collaborator, made each one's research publications and had discussions based on them. Through the study period, each of us wrote each one's papers and made conference presentations as research results of this collaboration. Further, as a comprehensive research result, we planned publication of collected essays of "philosophy and ethics of violence", and now are going ahead with writing and editing toward publication planned 2018's autumn. Each of us and a research collaborator writes one chapter, so the collected essays will be a book containing nine chapters.

研究分野：哲学

キーワード：哲学 倫理学 暴力論 思想史 現代思想 宗教思想 日本倫理思想

1. 研究開始当初の背景

暴力研究としては哲学・倫理学だけでなく、社会学、歴史学、教育学、メディア論などさまざまな領域から多彩な研究がすでに行われている。しかしそれらの多くがほぼ自明の前提として共有してきたことがある。殴る・蹴る、あるいは戦争やテロ等の「物理的・身体的暴力」こそが真正の、あるいは少なくとも典型的な暴力である、という理解である。一方現代社会において前景に浮上しているのは、いじめやハラスメントにみられる「言葉の暴力」や、不正な社会構造に埋め込まれた「構造的暴力」といったものである。上記のような前提理解ゆえに、こうしたものをも総合的にとらえる暴力研究は比較的手薄であるように私たちには思えた。以上のような背景から、多様な暴力を総合的にとらえる新たな哲学・倫理学のアプローチを目指す本研究の構想が生まれた。

2. 研究の目的

社会構造やコミュニケーション環境の変化に伴い多様化・潜在化する「暴力」を捉え直し、倫理的課題として改めて位置づけるべく、諸思想における暴力への洞察を領域横断的に精査して、現代社会に対応した新たな暴力概念を見出すことを目的とする。そのために、様々なレベルで暴力と関連すると考えられる「表現」の概念に着目しつつ、(1)現代思想・哲学、宗教思想、日本思想における多様な暴力の思想を精査してそれらの相違と共通項を明らかにし、さらに(2)物理的・身体的暴力だけでなく、言語的・社会的暴力も主題化し、それらがなす重層的な構造を解明する。「表現」を媒介にして暴力概念を根源的・重層的に捉え直し、多様な存在様態をもつ暴力を克服する理論的基盤を見出すことが、研究の当面の目標となる。

3. 研究の方法

多様な学問的背景をもつメンバーが研究課題を大きく共有しつつ、同時に自身の領域の特性を生かして独自の研究を深める、ということの方法とする。具体的には研究会の開催を中心に、各自が自身の考察を発表し、それを全員で検討して共通テーマとの関連を議論し、再び個々のメンバーがそれをふまえて自身の考察を深める、といったフィードバックを繰り返しつつ、共同研究を進めていく。

4. 研究成果

研究期間内に計6回の研究会を開催した。研究代表者・分担者の8名に、時に研究協力者も加わり、各自の研究発表とそれにもとづく討論を行った。それらの共同研究を通じて各自は、論文や学会発表として随時研究期間内に公表。さらに本研究の総合的な成果公開として、「暴力の哲学・倫理学」の論集を企画し、その公刊(2018年秋の予定)へ向けての執筆・編集活動を進めている。研究代表

者・分担者および協力者が各章の執筆を担当する、全9章の論集になる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計15件)

藤村安芸子、日本仏教思想史上の『源氏物語』、比較日本学教育研究部門研究年報、査読無、14号、2018、25-34

岩野祐介、人権概念の受容と日本プロテスタント・キリスト教 内村鑑三のルター受容とルター批判、神学研究、査読無、65号、2018、93-111

新田智通、心理学と疑似スピリチュアリテイ 伝統学派による批判的考察を手がかりとして(中編)、グリーンケア、査読無、6号、2018、17-35

相澤伸依、避妊を正当化する論理:1960年代フランスの避妊解放運動の場合、東京経済大学人文自然科学論集、査読無、142号、2018、31-40

飯野勝己、フォースとヴァイオレンス 暴力を世界のなかに位置づける、国際関係・比較文化研究、査読無、15巻2号、2017、1-15

樋口浩造、東アジアにおける冷戦体制と日本 東アジアにおけるそれぞれの戦後から、愛知県立大学大学院国際文化研究科論集、査読無、18号、2017、89-110

岩野祐介、平和とキリスト教史、関西学院大学神学部編『平和と神の歩み 関西学院大学神学部ブックレット9』、査読無、9号、2017、79-86

飯野勝己、侮辱と傷つけること 「発語内の暴力」序説、国際関係・比較文化研究、査読無、14巻2号、2016、1-22

坪井雅史、日本沿岸捕鯨史研究のための覚書 福本和夫『日本捕鯨史話』を中心に、人文研究、査読無、190号、2016、177-192

坪井雅史、評論の言葉 西欧的価値の岐路、神奈川大学評論、査読無、83号、2016、1-1

岩野祐介、日本キリスト教史とディアコニア、関西学院大学神学部編『教会とディオコニア 関西学院大学神学部ブックレット8』、査読無、8号、2016、65-90

新田智通、心理学と疑似スピリチュアリテイ 伝統学派による批判的考察を手がかりとして(中編)、グリーンケア、査読無、6号、2018、17-35

りとして(前編) グリーフケア、査読無、5号、2016、59-74

樋口浩造、権力の誘惑 靖国を考える視点設定をめぐる、日本思想史学、査読無、47号、2015、24-27

IWANO Yusuke, Understanding the Spiritual Soul and Dualism in Uchimura Kanzo, Japanese Religions, 査読有, Vol.40,Nos.1&2, 2015, 45-64

新田智通、仏教のスピリチュアル化について 現代世界における仏教の変容、佛教学セミナー、査読無、100号、2015、27-49

[学会発表](計13件)

樋口浩造、靖国神社問題と今後の日中関係、2017、四川理工科大学

藤村安芸子、日本仏教思想史上の『源氏物語』第19回国際日本学シンポジウム、2017、お茶の水女子大学

岩野祐介、宗教と戦争を考える 4 内村鑑三の戦争観、2017、日本クリスチャン・アカデミー関西セミナーハウス活動センター

岩野祐介、座古愛子のキリスト教理解と信徒伝道 座古の後期著作を中心に、キリスト教史学会西日本部会、2017、関西学院大学梅田キャンパス

藤村安芸子、日本において仏教は、どのように受けとめられたのか 仏教説話集を手がかりとして、西田幾多郎哲学講座、2016、西田幾多郎哲学館

藤村安芸子、出家を志す女君たち 『源氏物語』と仏教、西田幾多郎哲学講座、2016、西田幾多郎哲学館

岩野祐介、内村鑑三における「霊の体」、第31回内村鑑三研究セミナー、2016、立教大学

岩野祐介、「国学者『松山高吉』のキリスト教受容と宗教理解」コメンテーター、日本宗教学会第75回学術大会、2016、早稲田大学

新田智通、「永遠の哲学」と「伝統学派」、日本宗教学会第75回学術大会、2016、早稲田大学

上石学、「抽象化の精神」の克服 芸術作品における「愛の精神」と共同体、九州美学研究会、2016、九州大学

相澤伸依、性・身体・自己 「自然」との関わりから、応用哲学会第8回年次大会、2016、慶應義塾大学

AIZAWA Nobuyo, Comment réagit le mouvement féministe «Ūman ribu» à la pilule contraceptive?, Société française des études japonaises, 2016, Université Jean Moulin Lyon 3

岩野祐介、漢字文化圏における聖書翻訳と信仰の表現、日本宗教学会第74回学術大会、2015、創価大学

[図書](計3件)

藤村安芸子 他、竹林舎、新時代への源氏学4 制作空間の 紫式部、2017、328

藤村安芸子 他、ナカニシヤ出版、愛結婚は愛のあかし?、2016、230

相澤伸依 他、ナカニシヤ出版、性 自分の身体ってなんだろう?、2016、240

[産業財産権]
出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

飯野勝己(IINO, Katsumi)
静岡県立大学国際関係学部准教授
研究者番号: 70551729

(2) 研究分担者

樋口浩造(HIGUCHI, Kozo)
愛知県立大学日本文化学部教授
研究者番号: 30243140

坪井雅史(TSUBOI, Masashi)

神奈川大学外国語学部教授
研究者番号： 20386816

岡田（藤村）安芸子（OKADA(FUJIMURA),
Akiko）
駿河台大学現代文化学部教授
研究者番号： 20323561

岩野祐介（IWANO, Yusuke）
関西学院大学神学部教授
研究者番号： 20509921

新田智通（NITTA, Tomomichi）
大谷大学文学部講師
研究者番号： 40612891

上石学（KAMIISHI, Manabu）
聖心女子大学文学部講師
研究者番号： 70349166

相澤伸依（AIZAWA, Nobuyo）
東京経済大学経営学部准教授
研究者番号： 80580860

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

中野良樹（NAKANO, Yoshiki）
秋田大学教育文化学部教授
研究者番号： 50310991